コンソーシアム事業の成果を中間報告

省エネルギー、緑化、アイドリングストップに挑戦

◆コンソーシアム◆
二つ以上の個人、団体、企業などから成る団体で、共同の目的に沿った活動を行うために結成される

団体連携のコンソーシアム事業の中間報告が、〝エコレシピ〟オーディションの会場で行われた。今年は、県内の地球温暖化対策地域協議会二十五団体のうち、十六の団体が参加して三事業を展開しており、その成果や課題が報告された。

【エネルギーセーブ・コンソーシアム】

省エネ診断をベースに、生活実態に合わせたアドバイスを行い、家庭での省エネを推進する。構成団体は六団体。

地域のお祭りや学習会などで省エネ診断を行い、面談でエネルギーの無駄を見つけてアドバイスする。その後、一カ月間の省エネに取り組んでもらい、電気・ガス・ガソリンの削減量を記録用紙に書き込んで返送する仕組み。同時に家族数や居住形態、家電の種類や台数などのアンケートを行い、地域ごとのエネルギー使用実態の把握を試みた。参加世帯は二百六十九世帯。

面談で省エネをアドバイス（上）、早朝、竹原港にて事業の協力を呼びかけ（下）

集められたデータを解析中だ。

【アグリーン・コンソーシアム】

グリーンカーテンの更なる普及と効果を検証する。構成団体は十団体。TEAM MATEひろしま代表の広島工業大学建築工学科の清田誠良教授から、専門家としての技術的な助言をいただいた。

グリーンカーテンは増えつつあるが、栽培の難しさや効果的な設置方法、その効果の検証など、さまざまな課題があった。このため、清田教授を招いて学習会を行い、緑化の重要性や世界各地の事例、具体的な効果の測定手法などを学んだ。その後、調査項目や温度・湿度の測定手法を整理したマニュアルを作成。百六十二カ所から参加があり、このマニュアルと一緒に、温度・湿度計を各家庭に配布した。

グリーンカーテンには温度上昇を抑制する効果がみられ、エアコンの使用時間を短縮して、設定温度を上げることができ、昨年に比べて夏季の電力使用量が削減できた家庭が多かった。また、効果的な設置場所やちょっとした栽培の工夫の事例も寄せられている。

（詳細は、本紙連載中の「グリーンカーテンを科学する」を参照）。

【アイドリングストップ・コンソーシアム】

竹原市と大崎上島町を結ぶフェリー航路の待機所で、アイドリングストップを啓発し、実施状況を調査する。また、通勤客から参加者を募って、二カ月間のアイドリングストップを実践する。

フェリー乗り場のアイドリングストップは、大崎上島けんこう文化の島づくり協議会がこれまで長きにわたって取り組んでおり、今年は対岸の竹原市にも取り組みの輪を広げた。構成団体は三団体。

まずは、これまでの普及啓発効果を確認するため、待機所で抜打ち調査を行った。実践率は約六十％で、今年の取り組みのベースラインになる。その後、実践率向上を目指して、アイドリングストップを啓発し、通勤客に対して約二カ月間のアイドリングストップ・トライアルへの参加を呼びかけた結果、約六十人が参加した。現在、CO_2削減量を解析中だ。

◆

地域協議会、事業者、大学などが協働するこのコンソーシアム事業は、みんなで知恵を出し合えば、難しいことも乗り越えられる大きな可能性を秘めている。脱温暖化センターひろしまでは、今後もコンソーシアムの取り組みを支援していく。

◆

（脱温暖化センターひろしま）

コンソーシアム構成団体紹介

エネルギーセーブ・コンソーシアム

府中町脱温暖化市民協議会、広島市地球温暖化対策地域協議会、くれ環境市民の会、エコINNくろせ、くい環境会議、栗原地区地球温暖化対策地域協議会

アグリーン・コンソーシアム

くれ環境市民の会、脱温暖化ぬまくまフォーラム、脱温暖化ネットおんど、布野の食と脱温暖化を考える会、町づくり脱温暖化やすうら、ひがしひろしま環境家族、海田町地球温暖化対策地域協議会、脱温暖化・門田地域協議会、栗原地区地球温暖化対策地域協議会、かんきょう会議浮城

アイドリングストップ・コンソーシアム

大崎上島けんこう文化の島づくり協議会、エコネットたけはら、大崎フェリー同盟

温度上昇の抑制効果がくっきり

設置方角や栽培に工夫が必要

③データ解析スタート

県内各地百六十二カ所のデータから、温度や湿度について百三十四カ所分の詳細データが得られました。

植物の種類は、ゴーヤが六十六件（四十九％）と最も多く、アサガオ類十七件（十三％）、これらの組み合わせが四十三件（三十二％）、その他八件（六％）でした。

カーテンの大きさ（面積）は、最大が六百六十平方メートル、最小が二・四平方メートルでした。十平方メートルより小さいものが五十八件（四十三％）、十～二十平方メートルが三十二件（二十四％）、二十平方メートル以上は二十三件（十七％）で、百平方メートルを超えたのは市役所と小学校でした。

植え方は、プランターが八十件（六十％）で最も多く、地植え四十三件（三十二％）、プランターと地植えの混合が四件（三％）、その他七件（五％）でした。

カーテンの設置方向は、南寄りが六十二件（四十六％）で最も多く、西寄り三十三件（二十五％）、東寄り十八件（十三％）、北寄り十二件（九％）でした。

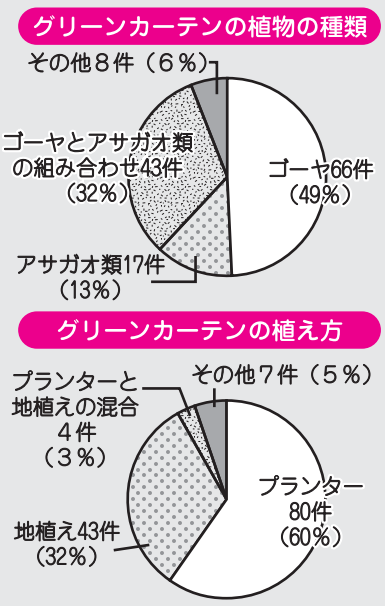
グリーンカーテンの内側と外側の温度差は、晴れた日で最大九℃に達しました。設置方向と温度の関係をみると、温度差が生じる時間帯は、南寄りでは日の出から夕方まで、東寄りでは午前中、西寄りでは夕方でした。太陽の動きと連動するので、グリーンカーテンを南側に設置すると効果的です。

使用電力の削減状況を個別にみると、最大が二万千七百六十八キロワット時で、千キロワット時以上が八件、千キロワット時未満が百十五件でした。削減量の合計は七万四千七百四十五キロワット時で、CO_2に換算すると三万二千百四十キログラム-CO_2となりました（速報値）。

アンケートでは、「涼しかった」が六割、「エアコンの使用回数が減った」が五割、一方で「手入れが大変」が五割、「害虫対策に苦労した」や「栽培の失敗」が二割でした。

これから詳細に解析し、事例集としてまとめる予定です。

（脱温暖化センターひろしま）



地区衛生組織活動資金募集（健康感謝募金）にご理解・ご協力をお願いします！

～4月7日は“健康感謝の日”～

今年 53回目の実施

昭和35年2月、広島市で開催された広島県公衆衛生大会「健やかな暮らしをつくる人々の集い」において、世界保健デーの4月7日を『健康感謝の日』と定めました。それ以来、4月7日を中心に、健康で暮らせることに感謝し、地域社会の人々の健康増進をはかる地域ぐるみの活動を実施しようと、毎年募金活動実施しています。

集められた募金は、募金委員会が定めた要綱・使途遵則により、各市町の公衛協や環保協に配分され、地域の公衆衛生活動のために使われます。

町内会や自治会などから募金袋が回りますので、ご協力をお願いします。

集められた募金はこのような活動に使われます

- ごみの減量化と分別の徹底・リサイクル活動の推進
- 道路、河川など生活空間の美化活動
- 脱温暖化に向けたライフスタイルの推進
- 次世代を担う子どもたちのための環境学習
- 健康づくりのための教室や大会の実施
- 生活習慣病予防と健康づくりの推進

など…